

令和8年度

全国学力・学習状況調査の結果より

4月23日に6年生で実施しました「令和8年度全国学力・学習状況調査」について本校6年生の結果をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

今年度は国語、算数の2教科が実施されました。2教科とも平均正答率は全国平均を約5%～10%上回る結果となり、2教科とも「知識・技能」「思考・判断・表現」共に平均正答率が全国平均を上回りました。特に2教科とも「知識・技能」の正答率の方が、「思考・判断・表現」の正答率よりも全国平均の上回り差が大きかったです。問題形式別（選択式・短答式・記述式）で比較すると2教科とも3つ問題形式とも平均正答率が全国平均を上回りましたが国語、算数共に記述式での平均正解率は全国平均よりも約1%～3%の上回りに留まったという特徴が見られました。

国語の結果より

学習内容別では「言葉の特徴や使い方に関する問題」「情報の扱い方に関する問題」「話すこと・聞くことの問題」「読むことの問題」の正答率は全国平均を大きく上回りました。その中で「書くことの問題」で正答率が低かったので分析しました。引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題です。正答率は全国平均の正答率よりも6.4%低かったです。

提示された文章の続きを4つの条件に当てはめて、集めた情報から抜き出して考えが伝わるように書く問題です。（下図）4つの条件のうち、涼しく過ごせる衣服の色について考えたことは書けているが、本の題名と本文の一部の内容を選んで抜き出して書いているが、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にして区別して書けていないなど、引用に関しての条件を満たしていない誤答の割合が29.2%と多かったです。

引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するためには、引用する目的を明確にした上で本や文章などから必要な語句や文を抜き出して書くこと、原文を正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にして区別して書くことなど普段から意識して取り組むことが重要であると考えます。

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か
「色の知識」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしさをうかせる」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、肌さでもすずしく過ごせることができそうだ。
また、

5 終わりに
これまでなんとなく選んでいた衣服も、目星をききえるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことをまかし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。
(参考文けん)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の知識	青は海や水を連想させ、すずしさをうかせる。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反射させる色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をききゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

算数の結果より

学習領域別に見てみると「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」の領域では、どの問題も正答率が全国平均を上回りましたが、「データ活用」の問題では正答率が全校平均を下回る傾向が見られました。特に正答率が全国平均を下回った問題を見てみます。

1年生の各学級の人数は、下の表1のとおりです。

表1 1年生の各学級の人数 (人)				
学級	1組	2組	3組	合計
人数	29	30	28	87

示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する問題です。（右図）

集計に誤りのある学級については2組と解答できているが、根拠については、表1と表2のどちらか一方しか記入できていない回答や、根拠について表1と表2の人数の差（3人）のみを記入している回答等、また表1と表2から根拠を読み取れない無回答などが見られました。ここでは合計欄の意味を理解し表1の各学級の人数と、表2の各学級の合計の人数が一致しているかを確かめることが必要です。その際に集計に誤りのある学級が2組であることの根拠を記述する上で、正答の条件の二つの事柄を書くことが必要です。

普段からデータを読み取り活用する際に、日時や場所などの観点からデータを分類整理し、変化や違いを読み取ることが重要になります。また、根拠を明らかにして記述することにも普段から取り組むことも重要であると考えます。

下の表2は、集めたアンケートを整理したものです。

表2 1年生が選んだ遊び (人)				
学級	1組	2組	3組	合計
ボール遊び	9	14	8	31
おにごっこ	8	7	10	25
普通遊び	12	6	10	28
合計	29	27	28	84

表1と表2を見ると、「全員分のアンケートが整理されていない学級」が1つあることがわかります。

「全員分のアンケートが整理されていない学級」は何組ですか。その学級を書きましょう。

また、そのことは、表1のどの部分と表2のどの部分とを比べるとわかりますか。言葉と表1と表2の□の中の数を使って書きましょう。

児童質問紙調査より

- 「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」といった設問に「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童の割合は全国平均より大幅に高く、よい結果でした。自己肯定感、規範意識、自己有用感を育む取組、行くのが楽しい学校づくりの取組に引き続き取り組んでいきたいと考えます。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問では「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答している本校の児童の割合は全国平均より高く、児童は地域から見守られ、地域の方々の関わりの中で育まれているという意識が高く、さらに地域や社会に対しての関心が高く、自分たちで前向きに取り組んでいこうという意識が学校、家庭、地域の中で育まれていることが分かります。引き続き、学校と家庭、地域や社会とがつながる機会を大切にしていきたいと考えます。
- 「朝食を食べているか」「毎日の就寝時間、起床時間」「毎日のスマートフォンやパソコン、ゲーム機、テレビの使用時間」など生活習慣に関する設問では各設問とも全国平均とほぼ同じ傾向が見られ、起床や就寝時間の不安定さやスマートフォンやゲーム機などの長時間の使用など本校でも一定傾向が見られました。家庭と学校が協力して引き続き、生活習慣を整えることに取り組んでいくことが重要であると考えます。